

〔様式3〕

R6

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区王子第三小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・平仮名片仮名を一通り学習したが、正しい書き順で書いたり、字形を整えて書いたりすることができない児童がいる。 ・「てにをは」や特殊音節の表記についての理解が難しい。 ・字を書くことに課題があるので、読むことについても課題が大きい。	・繰り返し平仮名やカタカナの練習をさせる。 ・プリントを活用して、宿題等で復習させ既習の内容を忘れないようにする。 ・授業や宿題で積極的に音読させ、字を覚え、正しく発音できるように指導する。	・児童が授業の流れについて行くのが困難な時には、学級経営支援員と協力し、個別に指導する。 ・児童が安心して発言できる温かい学級づくりをする。 ・朝のスピーチ等で、話す機会を多くつくる。
2年	・「見たことをもとにはっぴょうする」の内容は、区の平均よりも下回っており、見たことをもとに発表メモを作ることに課題がある。 ・「文しょうをかく」の内容は、区の平均正答率よりも下回っており、文章を書くことや書く時間が課題である。	・日頃から発表する場面では、伝えたいことや事実を伝えられるように必要があればメモを作ることを意識させる。 ・「文しょうをかく」の内容では、既習の漢字を使って文章作りをしたり、日記を継続して書くことに抵抗がなくなるように指導する。また、時間も意識して取り組むよう指導する。	・一分間スピーチなどを日常的に行い、必要があれば一緒にスピーチメモを作り準備する。 ・書く機会を増やし、文章作りや個別のプリントなどで、学習できるようにする。 ・日頃から時間を意識させてタイマーなどを活用する。
3年	・「かん字を読む」は、90%の児童が正答していたので、引き続き指導を続けていく。 ・「ものがたりを読みとる」や「文しょうを書く」では、誤答や無解答が多かったので、国語だけでなく他の教科でも書く指導を続けていく。	・「ものがたりを読みとる」「せつ明文を読みとる」では、内容の大体を捉えられるよう、教科書を繰り返し読ませたり、ノートに重要な部分を書かせたりすることに重点をおいた指導をする。 ・「文しょうを書く」では、授業の感想や振り返りをノートに書かせることを継続して指導する。	・書くことが苦手な児童については、教科書の見本や手本になる文章を参考にして書かせたり、個別指導をしながら文章を書けるようにしていく。発展的な指導では、本や新聞等を読んだ感想や意見を書かせたり、書く内容を個々にで考えさせたりしながら、取り組ませるようにする。
4年	・調べたことをもとに文章を書くでは、情報と情報との関係について理解し、自分の考えを明確にして書くことが課題である。 ・主語と述語との関係については理解しているが、文章を書いたり読んだりするときに、意識することが課題である。	・文章を書く活動を増やし、書いた物を確認させる。 ・国語だけでなく調べたことをメモするように指導する。 ・主語と述語の関係を意識させ、まとめやふり返りを書かせる。	・書くことに苦手意識が強い児童には、個別にヒントカードやワークシートを用意する。 ・授業だけでなく行事の振り返り、日記など書く活動を増やし、図書室を利用し読書等でよい文章に触れる機会を意図的に作っていく。
5年	・「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることが課題である。	・教材文を通して、比喩や反復などの表現や敬語の使い方に慣れさせる。朝の会などでスピーチを取り入れ、相手に分かりやすく伝えるために話の内容を工夫させる。また、説明文の構成を理解させ、説明的文章を順を追って考えていく練習をしていく。	・国語辞典やきたコンの言語検索機能を活用し、日常的に漢字や言葉を調べられるようにし、語彙を増やしたり、言葉の使い方に慣れさせたりする。 ・日常的に話す、聞く活動を取り入れ、相手の意図していることが何か考えられるよう環境を整える。
6年	・「物語の内容を読み取る」では正答率が低かった。描写をもとに心情を捉えることが課題である。 ・「文章を書く」では、自分の意見とその理由を明確にして、字数制限内で書くことが課題である。	・「物語の内容を読み取る」では、描写をもとに心情を捉えるときに、言葉を丁寧に読み取る学習を継続する。 ・「文章を書く」では、自分の意見とその理由を明確にしてから書く習慣を付ける。新聞記事など、身近な題材をもとに、自分の意見を明確にして字数制限内で書くことを継続して行う。	・朝の学習の時間に、トピックをもとに時間制限、字数制限を設けて自分の考えを明確にして、理由を具体的に書くことを習慣化していく。 ・自分の考えを書く機会や、話す機会を意図的に設けていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区王子第三小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・北区全体について興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる指導を工夫する。 ・地図や資料集、新聞などを活用して、学んだことや調べたいことを表現できるようにする。	・写真や映像、実物を見せたりして、学習問題に対して興味・関心をもたせるようにする。 ・見学や体験を通して学んだ内容を共通の視点に沿って、新聞等にまとめることができるようにする。	・地域で発行されている資料などを活用し、既習内容から身近な地域へと視野を広げながら学習を進められるようにする。 ・教科書や資料で紹介されていることを、実際に見学や校外学習等で見たたり聞いたたりする中で、考えを深め、知識を深めていけるようにする。
4年	・東京都について、住みよい暮らし、暮らしを守ることに人々の生活と関連することを理解させる工夫をする。 ・必要な情報を調べ、選びまとめる技能を身に付け、表現できるようにする。	・写真や映像資料、地図、文章資料などを活用し、学習問題を作り、ワークシートを活用しながら、授業を進めていく。 ・単元の終わりには新聞やポスターを作り、資料を活用させながらまとめていく。	・学習問題の解決を意識させ、調べ学習を進めていけるように本時の課題とのつながりについて考えさせる発問や声掛けをする。 ・書くことに難しさを感じている児童の参考になるようにペアやグループ学習を取り入れていく。
5年	・問題解決的な学習を取り入れ、主体的に調べる意欲や態度を育てる指導を工夫していく。 ・社会的事象の基礎的な事項を学習の中に意図的に組み込み、知識の定着を図っていく。	・学習問題を設定し、調べたことをまとめていく学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を身に付け、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・問題解決のために必要な資料を探したり、地図帳を活用して必要なことを読み取らせたりすることで、資料活用能力を高める。	・身近な社会的な話題や現代社会が抱える問題などを新聞記事や資料などから活用し、話題を投げかけることで、児童の興味・関心を引き出し、これからの社会の在り方について考える機会をつくっていく。
6年	・「世界の中の日本」では、各国の位置や国旗について十分理解していないことが課題である。また「日本の貿易」等の資料の読み取りが正確にできていない傾向が見られるため、資料の見方、読み取り方を指導していく必要がある。	・各国の位置や国旗について、地図帳やプリントを活用して繰り返し取り組み、知識の定着を図っていく。学習で使用する資料やグラフを読み取る活動では、グラフの読み方を全員でしっかり確認し、資料やグラフから理解したことまとめるようにする。	・朝の時間や宿題等を活用して、各国の位置や国旗について知識の定着を図る。他教科においても国名がでてきたときに地図帳で確認したり、資料やグラフを活用して読み取る活動を取り入れたりする活動を増やす。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・10までのたし算、ひき算は概ねできるが、具体物を使ったり、指を使わないとできない児童もあり、個人差が大きい。 ・設問に応じた答えを書いたり、文章題を読んで、たし算かひき算かを判断することが難しい児童がいる。	・音読などで繰り返し計算の練習をさせたり、間違えた問題について丁寧に説明したりすることを通して、児童一人ひとりが前向きに学習できるようにする。 ・文章を理解できるように他教科でも引き続き読む練習をする。	・たし算やひき算では、計算カードを使つての練習を継続的に取り組み、定着を図る。 ・習熟度別のプリントを用意したり、きたコンを活用したりして、児童の習熟度に合った学習ができるようにする。
2年	・「ひきざん」の内容が区の平均正答率よりも下回っていたので、課題が大きいと考えられる。 ・「ながさ・かさ」の問題も習熟が必要な児童が多い。	・「ひきざん」の内容では、速さでなく、正確さを大切にして解くように意識させたり、ひきざんだけでなく、たしざんや混合算などもプリントで復習をしたりする。 ・「ながさ・かさ」の問題は、日常生活にも長さやかさがあるもので、意識させながら継続的に指導して、量感を育てる。	・「たしざん」「ひきざん」が正確にできる児童には、「3つのかずのけいさん」でも速く正確に解けるようプリントなどでさらに練習をする。 ・ながさやかさが苦手の児童には、日頃から意識的に予想させ一緒に計測して量感をつかませる。
3年	・「三角形と四角形」以外は、区の平均を下回っており、具体的な授業改善が必要である。 ・「たし算・ひき算」では、繰り上がり・繰り下がりが習熟できていない児童が少なくない。 ・「かけ算」の文章問題では、乗法九九の適用の正答率が低い。	・習熟度別指導では、児童の学習状況を担当教員で随時共有し、児童の実態に合った授業を展開する。 ・適宜、既習の内容の復習や繰り返し練習に取り組ませたり、個別指導を導入したりしながら、学習内容の定着を図る。	・文章問題の読み取りでは、大事なことや聞かれていることを意識させながら、取り組ませていく。 ・きたコンのアプリを活用し、既習問題の復習や応用問題への挑戦を定期的に行っていく。
4年	・「円と球・三角形」「長さ・重さ」「時刻と時間」が目標値を下回っていることから「1分間＝60分」などは理解しているが使った計算ができていない。 ・図形の基礎知識・作図の技能が定着していない児童が多い。	・「円と球・三角形」では、図形の単元において基礎知識の確認とくり返し練習を行う。 ・「長さ・重さ」「時刻と時間」は、他の単位換算の学習において復習として取り扱い、くり返し指導を行う。	・「円と球・三角形」「長さ・重さ」では、関連の単元において学習の始まりに復習をする。 ・時刻と時間は、きたコンのアプリを活用し練習させたり朝学習や宿題等で定期的に復習していく。
5年	・「億と兆・がい数の表し方」の問題で、基礎的な概数の概念や表し方を理解していない児童が多い。 ・平行四辺形の作図の正答率が低く作図の仕方の理解に課題がある。 ・基礎的な計算などは比較定着しており、活用問題になると文章から何を求められているか読み取ることが難しい児童も多い。	・習熟度別指導で、それぞれの児童に合ったコースで適切な指導が行うことができるようにする。 ・朝学習や宿題等を活用し、定期的に既習事項を復習することで、理解を深める。	・理解が難しい児童には、問題の解き方を1つずつ丁寧に確認し、視覚的な支援をしながら学習を進めていく。 ・プリントで活用問題に取り組んだり、きたコンを使って復習したりして、習ったことを様々な問題で活用できるようにする。
6年	・「割合」の問題が、区の平均を下回っている。 ・与えられた情報を正しく読み取ることが苦手の児童が多い。 ・問題を読んで、「もとにする量」「比べられる量」「割合」がどれにあたるかを考えるのが苦手である。	・授業内で反復練習を繰り返す。問題形式を変えても解き方は変わらないことに気付けるように指導する。 ・文章を丁寧に読んで解けるよう指導する。 ・習熟度別指導で、各クラスの状況を把握できるよう共有する。	・「割合」の文章問題では、「もとにする量」「比べられる量」「割合」を読み取れるような練習を行う。 ・プリントを宿題にして家庭学習をさせ、学校で復習をしたりきたコンを活用しドリル学習を進めたりする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区王子第三小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・観察や実験を通して、児童が主体となって疑問を見付けられるよう、授業を工夫していく。 ・分かったことを理科の言葉を使ってまとめ、日常と関連付けたりしながら、学習内容の定着につなげていく。	・きたコンによる写真や動画、デジタル教科書を活用するなどの工夫により、児童の興味・関心を高める。 ・分かったことや振り返りが明確であり、わかりやすいものになるよう、ノートや観察カードのまとめ方を工夫し、支援する。	・具体的な方法を児童に提示しながら、繰り返し児童に問いかけて、選択・活用できるように指導する。 ・内容や場面に応じて、的確な問いを児童が自ら立てられるような発問、声掛けをする。
4年	・植物や昆虫の育ち方、昆虫の体のつくりについて基礎的な知識が定着していない。 ・難しいと感じた単元の定着度が低く、物の働き、物の性質について実験結果とまとめが結びつけることができていない。	・関連の単元で前年度の学習の復習をする。 ・実験結果とまとめが結付くような学習の進め方をする。 ・理科用語等が身につくようにプリント等を朝学習に取り組む。 ・予想→実験→結果→まとめをしっかり行う。	・きたコンを使用し問題練習をする。 ・結果と考察、まとめをわかりやすくノートにまとめるように指導する。
5年	・「物の体積と温度」や「水のすがた」の問題で、基礎的な知識を理解できていない児童が多い。 ・知識を生かして、事象の理由を説明したり、推測したりする学習が苦手な傾向が見られる。	・実験や観察の結果から、どのようなことが分かるか丁寧に確認して、全体で共有する。 ・生活とのつながりを意識して指導するなどして、理科の知識を活用することができるようにする。	・導入を工夫して、児童が興味をもちながら問題解決が行えるようにする。 ・宿題のプリント等を使い、定期的に基礎的な知識を振り返ることができるようにする。
6年	・「天気の変化」「魚のたんじょう」「人のたんじょう」「植物の花のつくりと実」が目標値を下回った。 ・とくに「人のたんじょう」は大きく下回っており、苦手な傾向がうかがえる。	・6年で関連単元を扱う際に復習をし、理解度を高める。 ・覚えなければならない所のポイントをおさえて授業する。 ・赤ちゃんが育つ過程、胎盤の中の仕組みなど具体的な部分で抜けがあるため、図や写真、動画などで身近に感じられるような指導・支援をする。	・「知識・技能」のポイントが下回っているので、基礎・基本が定着するような授業展開をする。 ・図やイラストなど、視覚的に理解しやすいもので授業を進める。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年			
6年	・全体で見ると、区の目標値を上回っている。しかし、「アルファベットを書く」「英作文」は大きく下回っているので、大きな課題点といえる。	・授業で「対話」「聞く」は何度も反復練習しているが、「書く」に関してもさらに取り入れていく。 ・大文字、小文字、簡単な単語の練習、Iから始まる文章を読む・書くなど、基礎的な部分の学習をさらに増やしていく。	・簡単な語句や基本的な表現を使って文章を作成することに関して、児童によって大きく差がある。じっくり考えて文章を作る時間を確保できるようにする。 ・I like～.やI have～.やWhat～？など、基本的な文章を理解して、自分のことについて書くことができるような指導をする。